板書例

2 第三段・第四段

第三段

落ち着かない気持ちを抱えた「私」が向かう先→駅

◆何かを待つ「私」の心
期待→恐怖→諦め→覚悟

白昼の夢
→非現実的な空想
望遠鏡を逆にのぞいたみたい
→目の前を行き交う人々が、遠く小さく見える
…「私」の孤独をあらわす
「けしからぬ空想」「淫らな女」「軽はずみな空想」「不埒な計画」
→自分（自分が考えたこと）を否定的に捉える「私」

第四段

◆繰り返される問い
「誰を待っているのだろう」
旦那さま→恋人→お友達→お金→亡霊
…全て否定する「私」